

一目でわかる! 明日からすぐ使える“初心者”AI活用術

本特集【各論①～⑩】ご執筆の10人の先生方に、①活用術、②用意するもの/AI、③具体的な利用法について、教えていただきました。AI初心者の皆様、一目でわかる! 明日からすぐ使える“初心者”AI活用術です。ぜひご活用ください。

①AI問診

①仮説の反証チェック ②生成AI(補助)

③問診の内容を受けて、考えられること、鑑別を記述し、「考慮漏れ・鑑別漏れのチェックをお願いします」と生成AIに依頼する。最初から雑に答えを求めるのではなく、自分で考えたものを点検する形で、デスキリングを避ける。これは自身の教育にもなる。(白石達也) >>> p.372

②画像診断支援AI

①現時点では生成AIを“お試し”として利用する段階で、まずはサンプル画像(公開データや教材用画像)を用いてAIと共に画像を確認することで、病変の見

落とし防止の気づきや画像分析結果の理解を深めるプラクティスになる。さらにAIによる読影所見文の自動作成の雰囲気を知ることができ、教育支援ツールとして有効である。

②GPT-5以降などのマルチモーダルAIを使用。設定画面のプライバシー項目で「すべての人のためにモデルを改善する」をオフにし、入力データが学習に利用されないようにする。医療情報を扱う際は、サンプル画像を用いることを基本とし、実画像を試す場合でも匿名化や個人情報の除去を徹底する。

③サンプルの医用画像をChatGPTなどのマルチモーダルAIに読み込ませ、画像解析や所見文の自動生成を指示することで、AIによる異常候補提示やレポート作成支援を体験できる。性能はいまだ限定的だが、得意・不得意を理解する良い機会になる。必ず人が確認する前提で、対話的Q&Aによる学習支援としても活用できる。(藤田広志) >>> p.376

③電子カルテ作成やトリアージ・診療・教育支援AI

①ChatGPTに希望診療科や難易度を指定し、タスク化すれば、習慣的な学習が可能。

②ChatGPTやCopilot(スマートフォン推奨)

③「毎日決まった時間に、〇〇科の臨床問題を5問出題して通知して」と依頼し、習慣的な学習を自動化する。(金子雄司・篠原直樹) >>> p.382

④AIによる薬剤選択・処方支援

①効率的な医学情報の収集と情報評価

②ChatGPT

③論文検索では「PubMed収載論文を検索」と指示することで、雑多なインターネット情報の引用ではなくPubMedに収載されている論文が優先的に参照される。論文要約では論文のPDFを生成AIにアップロードしたうえで、「研究のPICOを出力せよ」「研究の内的妥当性を吟味せよ」などと指示するだけで、研究結果の批判的吟味を実行することが可能である。(青島周一) >>> p.387

⑤医療AIチャットボット

①クレーム対応 ②ChatGPT

③具体的な利用法: クレーム内容を入力し、それに対する返答文を作成するようにお願いする¹⁾。以下にプロンプトの例を示す。

#タスク 「病院のクチコミに対する返答を作成してください。また私たちの主張も盛り込み、そのうえで簡潔な文章を作成してください」

#クチコミ 「受付の方に叱責された。こんな病院には二度と行きません」

#私達の主張 まずはお詫び。

「ただし、他の患者さんへの迷惑行為があった場合は、毅然とした対応をとらせていただくことがある。ご理解いただきたい」

(文献1: 松井健太郎, 他: 医療者のための ChatGPT—面倒な事務作業, 自己学習, 研究・論文作成にも! 新興医学出版社, 2023) (松井健太郎) >>> p.392

⑥在宅医療・遠隔医療におけるAI

①訪問診療後のカルテ記録を音声入力とAIでドラフト作成

②スマートフォンまたはボイスレコーダー／無料AI: ChatGPT、Claude、Geminiなど／医療特化AIスクライブ: Nuance DAX、Abridge、国内サービス各種

③診療時には身体所見やアセスメント、プランをわかりやすく声に出して説明する。訪問終了後、録音した音声をテキスト化してChatGPTに「以下を訪問診療記録として、SOAP形式に整形してください」と依頼し、出力されたドラフトを確認・修正してカルテに転記する。記録時間を半分以下に短縮できるうえに、患者満足度の向上やパラメディカルや本人・家族の診療状況の理解にもつながる。(鎌形博展) >>> p.396

⑦自己学習・ブレスト・省察相手としてのAI

①ブレインストーミング、異領域への越境学習、文章執筆支援

②Claude、Chat GPT、Gemini、Notebook LM

③Notebook LMを使用した文献、記事、動画等の学習、Chat GPTを使用した、異領域との接続を図るやり取り。それらを文章化するためにClaudeを活用(藤沼康樹) >>> p.399

⑧AIを用いた学会発表・スライド作成

①抄読会・カンファレンス用スライドの自動作成

②Gamma AI (無料、日本語対応)

③論文PDFをGamma AIにアップロードし、デザインと言語を選択して作成ボタンを押すだけ。数分で論文の要点をまとめたスライドが完成する。ただし、内容は必ず自分で確認し、理解したうえで発表に臨むこと。(大塚篤司) >>> p.403

⑨生成AIの活用と法律上の注意点

①まずは「どのように入力すれば期待する回答を出力してくれるか」という感覚の習得が大きなステップとなる。

②ChatGPT、Geminiなどの汎用AI

③使ってみるのが一番なので、身近なテーマで指示文を書いてみよう。料理案や旅行案の作成など、「設定」と「指示文」によってどのような出力がされるか、試行錯誤を繰り返すことが大事である。(平山貴仁) >>> p.407

⑩医学教育現場における生成AI活用

①ChatGPT (無料版でも可)

②ChatGPTの学習モードを使用した自己学習

③チャット画面のプロンプト入力部分のオプション「あらゆる学びをサポート」を選択したうえで、「私は〇〇です。____に向けて△△を学習したいです」と入力する。

(例1: 私は内科専攻医です。担当患者の治療に向けてIgG4関連疾患を学習したいです。例2: 私は医学部6年生です。臨床実習の教授試問に向けてIgG4関連疾患を学習したいです。)

同じ疾患でも条件に沿った応答が展開される。(松山 泰) >>> p.411